

より充実した学びの環境へ 金城学院キャンパスマスタープラン

2009年より行われている金城学院中期計画の一環として、今年度より金城学院キャンパスマスタープラン「KMP21」がスタート。学院全体のキャンパス整備が行われます。その計画内容やKMP21への思いについて野村理事長にお話を伺いました。

あくまでも学生目線で きめ細やかな計画を

2011年度は、6年前大学に新設した薬学部のすべての学年が揃ったという、学院としてのひとつの区切りの年を迎えました。またさまざまな努力や皆様にご尽力いただいた結果、財政的にも環境が整いました。これは学院としての大きなエポックであり、金城学院キャンパスマスタープランを行っていく絶好のタイミングであると確信しております。

私どもは2009年に学院創立120周年を迎え、昨年度はその中期計画の前半を終える年度ということもあり、今後の学院全体のキャンパス整備について金城学院キャンパスマスタープラン(KMP21)を立案し、全体計画を作り上げました。

教職員の皆さんに説明会を行ったところ、さまざまな角度からいろいろな意見を頂いております。例えば大学では薬草園の移転先について、「専門の方に水はけや日照量について調べてもらったほうがいい」「学生たちにより親んでもらえる場所へ移転を」などの意見も出ております。このように決して私どもの目線ではなく、あくまでも学生の目線で計画を進めていくことを大前提に、細やかな配慮のも

とで各校におけるプランの立案を進めてまいりました。KMP21についてこうした活発な意見交換が行えるのは大変喜ばしく、まさにディグニティの心に通じると実感しております。

大学のキャンパス整備には 3つのコンセプトを設定

KMP21では、大学のキャンパス整備について3つのコンセプトを打ち立てています。まずひとつめは「多様な交流を促す空間の創出」です。大学時代は将来に向けての人格形成を促す大切な時期であり、また生涯の友人を作る場でもあります。こうしたことからキャンパスの中心に学生同士あるいは学生と教員が自由に交流できる集いの場を整備する「センター構想」を思索しております。

また集いの場の中心には、学院の建学の精神であるキリスト教主義に基づき礼拝堂を作りたいと考えております。朝、礼拝堂で祈りを捧げて心を鎮めてから授業に出る。あるいは授業が終わったら1日の感謝を神に祈って家路に向かう。学生が自分自身と向かい合える、心落ち着き思いにふけることができる、そんな場所を作りたいと思います。しかし具体的な課題もま

だ多くありますので、すべてがマッチングできる構想を模索していきたいと思っております。

2つめは「安心で使い易く、質の高い教育・研究環境の整備」です。すべての学生が女性です。まずは何よりも安心、安全を厳守しなくてはなりません。またKMP21では教室について、例えば学生ひとりに対するゆとりあるスペースや明るさの確保など、細かい部分まで検討しております。またトイレをどうするか、ロッカーを使い易くするにはどうするかなども合わせて考えていかななくてはならない問題です。

3つめは「自然と共生する環境配慮型キャンパスの整備」です。私どもの大学は広大で豊かな自然環境に恵まれ、またその自然との共生をめざしてさまざまな取り組みを行っております。例えば現在、学生を中心に大学の里山を整備する「KSC(金城里山コンサベーション)」がキャンパス内に炭焼き小屋を作って伐採した竹を炭として再利用するなど、さまざまな活動を積極的に行っております。里山は自然の仕組みに沿って人の手を加えることで、人と自然の共生が可能となります。今後も学生が積極的にこうした活動に取り組み、里山の自然と共生していけるようなキャンパス整備を行って

いきたいと思っております。

これらのコンセプトを通し、将来的にはひとりひとりが学生生活を満喫しながら将来や人生について考えることができるキャンパスになればと思います。それぞれが、自分自身を見つめ直し、認識できる場にしていきたいと考えております。

また大学のみならず、KMP21は学院全体のマスタープランとして中学や高校も施設の配置や整備、また生徒の活動スペースなどを充実させるプランを計画しております。具体的には体育館や老朽化した校舎の建て替え、また普通教室や特別教室など複数の建物に分散されている各室のゾーン分け、およびグラウンドの拡張などを検討しております。

順次計画を遂行しながら よりよいプランで整備を

KMP21のこうした計画は複数のフェーズに分けて行う予定です。1つのフェーズが完成した時点で一度振り返り、次のフェーズを進めるにあたっての問題点をクリアにする必要があります。さらに「もう一カ所教室を増やす」「新しい学部を作る」など、新たな懸案事項が出てきたなら、それについて慎重に検討を重ねていきたいと考えております。今の時点ですべてを決めてしまうのではなく、計画を進めながらその時々で責任ある判断を



金城学院 野村秋博 理事長

行っていきたいと思っております。

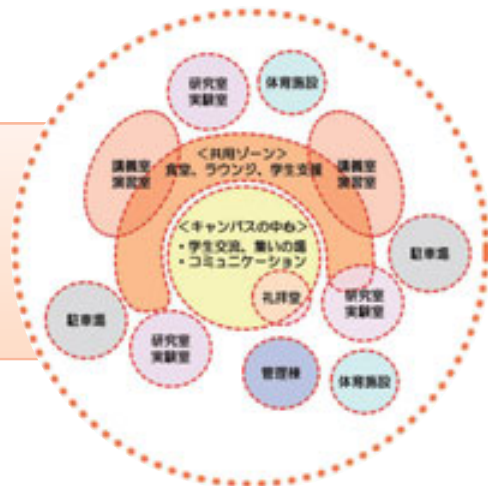
そのためにはさまざまな方々の意見が必要となります。KMP21の委員会は年齢も役職も幅広い方々で構成されています。これは今決断すべき時に的確な判断ができる方に加え、次世代の学院を担う時にこのKMP21での経験が活かされる、そんな若い世代の方も必要だと考えたからです。こうしたさまざまな年代の方々が多くの意見を交わしながら、よりすばらしいプランを持って学院を変えて

いくことはとても大切なことです。

金城学院は今年、123年目を迎えます。これから約2年間をかけてフェーズ1を行う予定です、すべての計画が具体化するまでは責任を持って推進して行きたいと思っております。またこのすばらしい学院を次世代へと引き継ぎ、学院創立200周年もぜひ卒業生、在校生の皆さんで祝っていただけるようにと心から願っております。

大学キャンパス整備計画のコンセプト

- ◆ 多様な交流を促す空間の創出
- ◆ 安全で使い易く、質の高い教育・研究環境の整備
- ◆ 自然と共生する環境配慮型キャンパスの整備



大学キャンパス整備計画

<整備計画の概要>

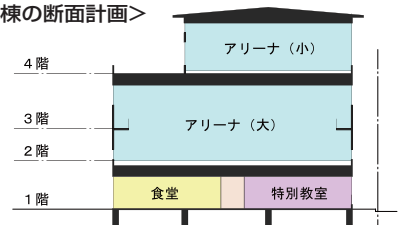
- ① キャンパスコミュニティの中心となるセンターコートを整備
- ② 分散している講義室や研究室を集約
- ③ 大学の顔となる正門とアプローチ、礼拝堂を整備
- ④ 学生駐車場を建物近くに配置し、動線を整備
- ⑤ 運動関連施設を東エリアに集約し、グラウンドは現状より拡大して整備
- ⑥ 自然を享受できる外部スペースを整備



高校キャンパス整備計画



<新体育館棟の断面計画>



<新体育館棟の概要>

- 4F 小アリーナ等
- 3F 部室等
- 2F 大アリーナ、体育教官室等
- 1F 食堂、特別教室(音楽・調理・家庭科室)及び多目的室等

高校キャンパス整備計画の構想と願い

栄光館を中心とした配置で 新しい体育施設の建物を計画

昨年度、中学に新しい白百合館が完成いたしました。これで私どもの長年の夢であった中学の礼拝堂が完成したことになり、中学の基督教教育の拠点ができたことになりました。

これを受け、さらに施設を充実させようと今回の「KMP21」で高校に体育施設を含む新しい建物を作ります。学院創立120周年時には中期計画として中・高キャンパスの整備が理事長より発表され、新学習指導要領で体育の授業が増えることを踏まえて、まずは高校の体育施設を改築しようということになったのです。

新体育館棟は、みどり野館と世光館のあるスペースに建てられる予定です。現在、この2つの建物はゆとりのあるスペースに建てられており、教育活動の場としては比較的稼働率が高くないということからこの場所に、ということになりました。また高校の栄光館は国の登録有形文化財であるため、改築することができません。さらに栄光館は神を礼拝する場所であり、高校のシンボルでもあります。そこでこの栄光館を中心として新体育館棟と教室棟の3つの建物に校舎施設を

集約する。そうすることで神に見守られながら安心して学べる、基督教教育の女子校らしい雰囲気と備えた学び舎が完成すると考えています。

新体育館棟には大小のアリーナとランチルーム、家庭科実習室、音楽室、多目的室、クラブの部室が一部入る予定です。また生徒たちの動線を重視し、教室棟から栄光館、新体育館棟へはスムーズに動けるように配慮する予定です。さらに緊急時にも対応できるように、エレベーターも配置します。

新体育館棟の景観は栄光館と合わせた色合いにするなど、女子校らしい雰囲気になるように考えています。内部もゆったりと空間をとり、生徒が集えるような場を設ける予定です。

敬虔なクリスチャンであった新渡戸稲造氏は知識量が人格者の基準ではないということを描き、「『知ること(to know)』よりも『実行すること(to do)』、『実行すること』よりも『存在すること(to be)』が大切である」という言葉を残しています。これを今の校舎に置き換えてみますと、to knowとは地塩館、希望館、新希望館のことであり、to doは今回の新体育館棟、



深谷昌一 校長

to beは栄光館だと私は思うのです。中学でいえば白百合館、高校でいえば栄光館はto beを、つまり自分がどうあるべきか?を考える場所なのです。

新体育館棟の完成によって各施設に意味を持たせ、生徒たちが知識をさらに積み、さまざまなことを実行しながら神の前に私たちはどうあるべきか、女性としてどう生きるべきかを見つめることができる、そんな教育展開が実践される学校であり続けようという願いも込めて、キャンパス整備計画に着手して行きたいと願っています。

高校キャンパス整備計画のコンセプト

- ◆ 多様な交流を促す教育環境の整備
- ◆ 安全安心で学習に集中できる教育環境の整備
- ◆ 機能的で使い易く、維持管理のしやすい施設